



録画映像

Q 保留児童・待機児童を出させない対策は

A 町 長

各保育施設に定員を超えての受け入れをお願いしている。

Q1

定員超過などにより希望する園に入所出来ない児童（保留児童）と、特定の園を希望していないのに入所ができない児童（待機児童）が、今年度かなりの人数が出ていると聞く。対応は。

A1

他の園や広域入所等の入所可能な施設を紹介する。認可外保育施設に通園している児童の保護者に対し、保育料等の補助を行っている。

Q2

認定こども園になると0歳から2歳の園児も受け入れ可能になるが、3歳児以上の募集人数が減ったところもあり、3歳以上の入所対応はどう考えているか。

A2

幼稚園部分に入所してもらうか、保育の配置基準を満たしたうえで、園側に定員を超えての受け入れをお願いする。



Q 防犯灯の取り付けの手助けは

A 町 長

困難な場所などについては手助けしていく。

Q1

防犯灯の取り付けは自治会が行う。夜遅く何地区にもまたがって帰宅する方が、取り付けのお願いをする場合、各地区の自治会に相談しなければならない。大変な重労働だ。町の考えは。

A1

防犯灯設置は自治会が主体となるが、設置・修繕の8割と電気料金の6割を補助し、複数の地区にまたがる等の手続きが複雑な場合は、町が間に入り円滑な合意形成が進むようサポートする。



Q2

東中学校、萩原バス停から新宮までの通学路（県道）は、夜間暗い箇所が多い。防犯灯取り付けを含めた危険個所の調査、対応をお願いしたい。

A2

ご指摘の通学路の防犯灯については、各小中学校からの報告により現地確認を行った上で危険個所の把握に努めている。

関係機関と協議し改善の可能性を協議する。



Q 健康寿命を延ばす施策は

A 町 長

あらゆる年齢層のライフステージごとの健康課題に対して、支援に取り組む。

Q1

健康寿命の推移と延伸の施策は。

A1

平成22年から令和3年まで、男性は2.3年、女性は3.8年延伸。

さらなる延伸を目指し、「個人の行動と健康状態の改善」「社会環境の質の改善」「ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり」の3つを柱とした「第三次健康増進計画」を推進していく。

Q2

それらの施策の課題解決への取り組みは。

A2

「女性の健康づくり」の推進、「※プレコンセプションケア」の普及啓発など、包括的な健康支援に取り組む。

A3

要介護認定率の推移及び介護予防の施策は。

Q3

認定率は県内で3番目に低いが、過去3年間をみると微増傾向である。

健康寿命の延伸と介護予防を推進するため「シルバーリハビリ体操」「けんこう華齢教室」「ノルディックウォーク」など、目的に合わせて参加できるように環境を整えた。ボランティアポイント制度を導入したことにより、参加意欲、層の拡大に繋がっている。

※プレコンセプションケアとは…若い男女が将来のライフプランを考えながら日々の生活や健康と向き合うこと。



Q 行政広報の現状と今後は

A 町 長

それぞれの世代に合った方法で必要な情報を確実に届ける広報環境を整える。

Q1

情報収集の手段が世代によって紙媒体とデジタル媒体で二極化している。今後の対応は。

A1

「紙で届ける安心感」と「デジタルによる利便性」という両輪を使い分け、住民が必要な時に必要な情報にたどり着ける広報体制を構築する。

Q2

現在の広報紙はPDFで閲覧する度にダウンロードしなければならず不便である。「※HTML形式」による電子書籍の導入など、読む側の立場に立って、デジタル広報の在り方を見直すべきでは。

A2

HTML形式（電子書籍）の転換も含め、

費用対効果やデジタル人材の育成を考慮しながら検討を進める。

Q3

これまでの「意見を待ち受ける」形式に加え、住民が「読みたくなる広報紙」を目指すためにも、行政が情報を一方的に伝えるだけでなく、広聴機能を強化し反映させるべきでは。

A3

広報紙の刷新やデジタルツールを活用した双方向のコミュニケーションを強化し、住民の声を一層反映できる体制を構築したい。

※HTML形式とは…パソコンで見る画面を作るための専用の言葉です。これを使って文字や写真の並び順を決めています。



録画映像



竹爪 憲吾 議員



録画映像



尺田 耕平 議員